

(別紙2)

自己評価及び外部評価結果

作成日 令和3年3月5日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2790300137		
法人名	医療法人 楠医院		
事業所名	グループホームくすのき		
サービス種類	認知症対応型共同生活介護		
所在地	大阪府寝屋川市木屋元町5番35号		
自己評価作成日	令和2年12月15日	評価結果市町村受理日	令和3年3月3日

【事業所基本情報】

https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/27/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2790300137-00&ServiceCd=320

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人エイジコンサーン・ジャパン
所在地	大阪府大阪市住之江区南港北2-1-10 ATCビルITM棟9階
訪問調査日	令和3年1月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

静かな住宅街で近隣には公園やお宮さんがあり、散歩に出かけたり、外で日光浴や紙芝居を楽しんだり、地域に溶け込みながらゆったりした時間を過ごして頂いております。
施設での様々な行事やレクリエーション、地域での行事参加を通じて、その人がその人らしく楽しみのある生活が送れるよう支援しており、自家菜園で育てた野菜を使ったあたたかいお食事も皆様に召し上がって頂いております。
また入所者、職員共に新型コロナウイルス施設内感染対策を徹底しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

入居者一人ひとりの暮らしのペースを尊重している。例えば起床時間は厳格に定めず、また入浴日を設定していないため希望する日時に入浴することができる等入居者が望むペースに合わせて暮らしの支援を行なっている。
日中食事時間は設定され、現在はソーシャルディスタンスを保ちながらであるが、入居者は人と一緒に施設内で調理された暖かい食事を楽しむことができる。
地域での行事は自粛となり、外出もままならない現状においても、階段昇降やペダル漕ぎ、敷地内の散歩を通じて入居者のADLの維持や気分転換に努めている。
また新型コロナ感染症対策のため職員は個人生活も制限されているが、一丸となって積極的、能動的に感染対策に取り組んでいる。このままコロナ禍収束まで入居者の日常生活を守っていただきたい。

グループホームくすのき(2階)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次にステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人全体で共通の理念を事業所の理念とし、実践しており、職員研修の際、理念を具体的なケアにどう繋げていくかを学習しています。	理念には具体的な実践項目が含まれている。理念を貼りだし、研修において職員間で理念を共有するようにして、また新しい職員には必ず理念を説明している。	実践項目が含まれているのは具体的でよいが、理念と実践項目が混ざっているので理念の下位に実践項目を整理した方がより分かりやすいように思う。できればグループホーム独自の理念を作成していただきたい。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルス感染拡大のため、今年の地域イベントは軒並み中止となりました。同様に当施設行事も外部からの参加は見合わせてもらい、感染が落ち着いた際は参加して頂くようお願いしております。	感染防止対策の徹底化を図るため、地域との交流は困難な状況になっており互いに訪問できない状況下にある。また、ボランティアの受け入れも同様である。家族には事態の重大性を説明し理解を得ている。	地域内で会議があれば事業所からリモート参加の可能性を打診されてはどうか。出来る限り地域との接点の維持継続を図られるよう望むものである。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議においてご利用者様の生活状況を報告し、認知症のご利用者様の現状等に理解頂けるよう努めています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回運営推進会議を行い家族の方や地域の方にも参加していただき意見交換、要望を聞きサービス向上に努めています。また新型コロナウイルス感染防止対策について、当施設での取り組みを皆様に報告しております。	地域包括センター職員、老人会会長、民生委員、入居者、家族が参加している。できるだけ多くの家族に参加していただけるよう声掛けしているが参加家族は限られている。議題は入居者の状況の報告と昨今は新型コロナウイルス感染症対策である。	出席されない家族にも運営推進会議議事録を送付して、より一層の参加を促していただきたい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センターに必ず運営会議に出席頂き、意見・情報を貰う等良好な関係を築いています。市の保護課のケースワーカーには担当の利用者について様子を伝えたり、必要な手続き等連絡・相談を行っています。	コロナ感染防止対策について市の方から特別説明会がありマスク、食事時の注意、手袋の使い方についての説明などを受けた。普段は事業所の問題点の相談をしたり、包括支援センターを中核とした情報交換や意見を求めたりしている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる	身体拘束の弊害や悪影響について職員全員が理解するために定期的に勉強会を開催したり、職員で自主的に話し合うなど、身体拘束をしないケアに取り組んでいます。	入居者の行動を制限するようなものは使用していない。ベッド柵は本人または家族の同意の下、入居者の起き上がりや寝返りの補助のために使用する場合があるが、入居者の行動を制限するような使用は一切していない。離床センサーも使用していない。居室には施錠しないが、玄関は安全面を考慮して施錠している。言葉や口調による行動の制限をしないよう研修を通して職員が理解し、日々努力している。	

7	<p>○虐待防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされないことがないよう注意を払い、防止に努めている</p>	<p>虐待防止についてもホーム内で研修を開き職員一人ひとりがお互いに気を付け見過ごす事のないよう防止に努めています。</p>			
8	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>現利用者様の成年後見人である弁護士の方から助言を頂いて、グループホーム内で研修を行い活用できるよう体制をとっています。</p>			
9	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入居契約・退居解約時には十分な説明を行い、不安のないように努めています。また改訂時には家族に連絡し、理解・納得が得られるように説明しています。</p>			
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者には積極的に職員から話しかける等、意見が言いやすい環境づくりに努めている。また、家族には、不足の備品をお持ち頂いた際に、ご本人の様子を伝え、意見や要望を伺い、運営に反映できるよう努めています。</p>	<p>来訪時の会話を通して要望や意見を聞くようにしている。コロナ禍の現況では電話にて状況報告をしているがその時点で要望や意見も求めている。家族から提起しやすい環境である事が確認されている。</p>	
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>随時ミーティングや個別聞き取りの機会を設け、職員の意見が反映できるように努めています。</p>	<p>毎月開催する2ユニット合同の職員会議において職員全員に発言してもらっている。また管理者は日常的に職員の声に耳を傾けるよう努力している。</p>	<p>職員間での提案や申し送りの共有に関して現状でも徹底されているようであるが、職員全員が情報共有していることを記録に残していったきたい。</p>
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>代表者は各職員の適材適所を見極め、各ポジションに配置しております。失敗を恐れず、何事にもチャレンジできるような職場環境を整備しております。</p>		
13		<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際の力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>法人事業所内研修を行い一人ひとりの、力量を把握し、良いところを伸ばせるよう指導し、意欲的に働けるよう努めています。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>ネットワーク会議等、様々な会に加入しており同業者間での交流を図っている。同系列事業所の勉強会にも参加している。</p>		

Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>近所のスーパー等への買い物をはじめ、地域の行事に参加したり、ボランティアの方々に様々なご協力を頂き、地域資源を活用しながら快適な生活が送れるよう努めています。</p>		
16	<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>利用者本人及び家族様から今後への思い、要望などを聞き、家族様ともに安心して頂けるように努めています。また面会時にはご本人の様子を伝え、面会中止期間においては電話で状況を報告し家族様との信頼関係を築くよう努めています。</p>		
17	<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>利用者本人及び家族様からの会話やご本人の身体状況からニーズを導き出し、サービスを見極め必要とされるサービスを提供できるよう努めています。</p>		
18	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>その人に合った環境の下、役割活動を通し生活を共にし職員と利用者様が共に支え合えるような関係作りに努めています。</p>		
19	<p>○本人と共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>面会時や電話連絡等で日々の様子を報告し、ご利用者様のことを相談させていただいたり、共に考えられる関係を築けるよう努めています。</p>		
20	<p>○馴染みの人や場と関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>新型コロナウイルス感染防止のため入所者様には外出を自粛してもらっているが、知人等との関係が途切れないように電話を取り次ぐなど支援に努めています。</p>	<p>入居者の望みは出来る限り叶えるように配慮している。かつて近所にいた知人から電話があつたら取り次ぎをしたりしている。行き覚えのあるスーパーや美容院に行くこともあるが現在は自粛中である。</p>	<p>職員の方が提案されていたが、現在面会できない状況があるので、せめて家族が来館されたときに、タブレット等を使用してビデオで入居者の顔が見られるように体制作りをしていってもらいたい。</p>
21	<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>話が苦手な方や、居室で過ごす事多い方には声かけし役割活動やレクを通し、利用者同士が関わり合えるよう努めています。</p>		

22	○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	お亡くなりになられた方の葬儀には参列し、ご家族様に故人との入所中の思い出をお話するなど、これまでの関係を継続できるように努めています。		
----	---	---	--	--

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	○思いやり意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所後も随時、利用者と話ず機会を持ち、入所生活についての不安、不満等を払拭できるような環境を整えております。職員から積極的にお声がけし、利用者の思いを聞き出せるよう努めています。	表情を見て入居者の意向を理解するよう努めている。言葉を発するのが難しい入居者にはボードで意思を指示してもらっている。暮らしのリズムも可能な限り個々の入居者に合わせている。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時の聞き取りの際、家族より暮らしぶり等を聞き、又本人との会話の中で今までの、生活状況を聞き把握に努めています。職員から積極的にお声がけし、利用者の思いを聞き出せるよう努めています。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の、心身の状態を把握し1人ひとりに合った過ごし方が、できるよう支援しています。	
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者が、より良く暮らすために日頃からコミュニケーションをたくさんとることを心掛け、本人や家族との会話の中から趣味・嗜好を把握し、介護計画の作成に活かしています。本人のADLや職員からの聞き取りを基に必要であれば随時プランを見直しています。	個人記録・サービス計画・主治医の意見を踏まえ介護計画が作成され担当者会議で承認され家族の同意を得ている。計画期間は半年とされるも入居者の状況により随時見直しはされる。計画書は全職員が閲覧可能であり押印されている。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子 変化について介護記録に記載しその都度話し合い職員間で情報を共有し介護計画の見直しに活かしています。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況に合わせた柔軟な支援ができるよう職員間で話し合いその時々合った支援が行なえるよう取り組んでいます。	

29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>コロナ禍で毎年参加している地域での行事等が中止になり、直接地域の方々と触れ合う機会が少なくなっているが、運営推進会議で民生委員の方や自治会長さんとお会いした時にご意見を頂くなど、楽しい生活が送れるよう支援しています。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>基本的に入所前のかかりつけ医の医療機関で受診して頂いております。本人及び家族様の意向により、協力医療機関へ受診されることもあります。</p>	<p>協力医は楠医院とくすのき歯科医院であるが、現在かかりつけ医で受診している入居者は2ユニット中2名である。かかりつけ医受診時は家族が通院介助し、診療情報は家族から口頭で職員に、あるいは協力医へのサマリーとして伝達され、情報共有されている。</p>	<p>ご家族からの診療情報は文書化して、職員間で必ず情報共有していただきたい。</p>
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している</p>	<p>協力医療機関と24時間の連絡体制を敷いております。看護師にはいつでも相談できるような関係を築いております。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>入院時は入院機関へ必要な情報提供を行い、退院時には入院中の状態・留意事項等の確認を行い、退院後ホームでの生活がスムーズに送れるよう体制を整えています。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や、終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>家族に本人の状態を報告し重度化した場合は家族と話し合い何処までできるか十分説明しながら方針を共有できるよう取り組んでいます。</p>	<p>看取りは行っていないことを含め、入所条件や支援体制を納得された上で入所願っている。主治医により重度化が確認されれば、再度家族と最終的な話し合いが行われ入院が決定される。この時点で家族の意向が優先されるが主治医が入院先を紹介する事もある。</p>	<p>予定されていたターミナルケア研修はコロナ禍により実施できなかったとの事であるので、今後の課題として実現されたい。</p>
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>法人内の他事業所の研修に参加し、急変時及び事故発生時に対応できるよう心掛けております。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>避難訓練を行い利用者のスムーズな避難方法の習得に努めています。また地域での防災訓練について今年はコロナ禍で見送りとなったが、また地域の方と連携を取り、参加させて頂く予定です。</p>	<p>水害、地震、火事を想定し、普段の避難訓練は夜間想定で近隣の方の協力、消防署立会いの下、行なっている。歩行困難者の階段の昇降支援は2本のポールと毛布を利用した応急担架を使う予定である。設備点検等定期的に行ない、非常用食料・備品も準備している。</p>	

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	<p>○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保</p> <p>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>言葉づかい等、接遇に気をつけ尊敬をもって対応するように周知しております。</p> <p>声掛けひとつでスピーチロックという身体拘束になることを心掛け、職員同士気付いたことを注意しています。</p>	<p>話し掛けや言葉の使い方に関する研修を年一回実施している。研修記録は文書化され全員が共有している。特にトイレ誘導時のプライバシー確保に留意したり、個人情報の取り扱いにも慎重を期している。</p>
37		<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>日常の会話の中で本人の希望や思いを汲み取り自分で決められるよう支援しています。意思表示が出来ない方でも表情や動作で分かることもあるため反応をみながら把握できるよう努めています。</p>	
38		<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>職員がお手伝いしたくなるような時もありますが、本人のペースや希望に添えるよう時間に余裕を持ったケアに努めています。</p>	
39		<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している</p>	<p>職員が決めるのではなく自分で着たい服を選んで頂き、決められない方については一緒に選び支援しています。女性の化粧についても自身でいただき出来ない部分を援助するよう努めています。</p>	
40	15	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>季節の行事には、利用者と一緒にしながらイベント食を楽しめるようにしています。職員と一緒にテーブルやお盆拭き、配膳を行って下さっています。</p>	<p>特定の職員がカロリー計算をしてメニューを考え、職員全員が施設内で調理し、三食暖かいご飯食を提供している。パン食希望にも添うようにしている。現在は外食できないので季節を感じてもらえるよう行事食を提供している。入居者の調理の手伝いは衛生面を考え控えてもらっている。</p>
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、集会に応じた支援をしている</p>	<p>個々に記録を行い十分水分が取れているか、食事がとれているか確認しています。摂取量が下がっている場合は主治医に相談し、対応しています。</p>	
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>毎食後一人ひとりに合った口腔ケアを行い 汚れや臭いの無いように支援を行なっています。また口腔内清潔に努め誤嚥性肺炎の防止に努めています。</p>	

43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄パターンを把握し1人ひとりに合わせ たトイレ誘導をおこない日中失敗の少ない方は布パンツまたは布パンツにパット夜間も 個人に合わせて自立に向けた支援を行なっています。	排泄チェック表を作成し時間的なパターンの習慣付けを実施している。脚力の低下を防ぐ為、無理のない程度で階段の昇降やペダル漕ぎ運動を行い自立に向けた支援もしている。現在、半分の方がおむつ無しの生活をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬の処方だけに頼らず、食事や水分量などをこまめにチェックし対応しております。居室で過ごすだけでなく、散歩やレクリエーションで体を動かすよう声掛けしています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	一人ひとりの入浴のタイミングに合わせて施行しています。また拒否がみられる方には何回か声かけし、その方のタイミングを図り入浴できるように対応しています。	食事時間以外、基本的に日中いつでも入浴できる体制である。週2回以上入浴してもらっている。女性入居者に関しては同性介護である。入浴を嫌がる入居者には何度か声掛けするが無理強いはずず次の日にまた声を掛けるようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中役割活動や敷地内の庭を散歩するなど気分転換を図りゆっくり体を休めるよう支援し眠れない方 についてはお茶を一緒に飲みながら話相手をし落ち着けるよう支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や要領について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容を理解し、その日の体調状態を把握するよう努め変化があれば主治医に相談するようにしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節ごとの壁紙制作や飾りつけを行ったり、レクリエーション活動ではリーダーを決めたり、それぞれの能力を活かしながら役割を決め、楽しめるよう支援しています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルス感染防止のため、不要不急の外出は自粛してもらっていますが、敷地内の庭に出て歩いたり、紙芝居をしたり、少しでも外の気分が味わえるよう支援しています。感染拡大が落ち着いた際は本人、家族の希望に沿って外出できるよう支援致します。	令和2～3年にかけて二回に亘る緊急事態宣言の発令を受け利用者の感染防止に厳しい対応が迫られている。中でも建物周辺の安全圏に限って週一回10分～20分の外気浴を実施し気分転換を図るようになっている。	

50	<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>お金の所持は基本的に禁止しております。どうしても所持したい場合は、トラブル防止のため家族様の許可の下施設で管理する体制を整えております。</p>		
51	<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>本人、家族様の希望により電話を掛けたり、手紙を事業所宛てに送ってもらったり、職員が投函したり、自由にやり取りして頂いています。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>玄関やホールには季節の壁画を飾り四季をご利用者様に感じていただくよう工夫しています。ソファを置きゆったりと、利用者様が集まりやすい空間作りを心掛けています。家庭菜園での収穫及び食事での提供も季節感を味わいながら皆様楽しみにしています。</p>	<p>共有空間は明るく、お正月の書初めや絵馬が飾られ季節を感じさせる空間となっている。掃除は毎日行ない、こまめに換気して感染予防に努めている。掃除は入居者も手伝っている。</p>
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>ホールにソファを置きゆったりと過ごせるよう工夫し利用者一人ひとりが自分のペースで過ごせるようにしています。</p>	
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>部屋には自分の好きな物や思い出が詰まった物を置き本人が落ち着いて過ごせるように工夫しています。</p>	<p>居室にはそれぞれの馴染みの家具や家族の写真、置物などが設置され自分らしさが表出されている。仏壇を置かれている方も二人いる。掃除は職員と一緒にする時もあり部屋は綺麗にされている。</p>
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>手すりの設置や余裕のある空間など、利用者が安心・安全に過ごしていただけるような環境を整備しています。</p>	

V アウトカム項目			
56	職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	①毎日ある 数日に1回程度ある ②たまにある ③ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	①ほぼ全ての家族と 家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない ②
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている (参考項目:9,10,19)	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに とんどいない ④ほ
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族の3分の2くらいが ③家族の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

グループホームくすのき(3階)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次にステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人全体で共通の理念を事業所の理念とし、実践しており、職員研修の際、理念を具体的なケアにどう繋げていくかを学習しています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルス感染拡大のため、今年の地域イベントは軒並み中止となりました。同様に当施設行事も外部からの参加は見合わせてもらい、感染が落ち着いた際は参加して頂くようお願いしております。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議においてご利用者様の生活状況を報告し、認知症のご利用者様の現状等に理解頂けるよう努めています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回運営推進会議を行い家族の方や地域の方にも参加していただき意見交換、要望を聞きサービス向上に努めています。また新型コロナウイルス感染防止対策について、当施設での取り組みを皆様に報告しております。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センターに必ず運営会議に出席頂き、意見・情報を貰う等良好な関係を築いています。市の保護課のケースワーカーには担当の利用者について様子を伝えたり、必要な手続き等連絡・相談を行っています。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいます	身体拘束の弊害や悪影響について職員全員が理解するために定期的に勉強会を開催したり、職員で自主的に話し合うなど、身体拘束をしないケアに取り組んでいます。		
7		○虐待防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止についてもホーム内で研修を開き職員一人ひとりがお互いに気を付け見過ごす事のないよう防止に努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現利用者様の成年後見人である弁護士の方から助言をいただき、必要とされる利用者に活用できるような体制を整えております。		

9	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約前の入所見学の際、利用者及び家族様からの疑問一つひとつに丁寧に説明し、当施設を信頼してもらえるよう努めております。</p>		
10	<p>6</p> <p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>新型コロナウイルス感染防止のため、面会を中止せざるを得ない時期がありました。その期間、家族様へ利用者様の状況報告をする際に意見・要望を聞き運営に反映できるよう努めています。</p>		
11	<p>7</p> <p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>随時ミーティングや個別聞き取りの機会を設け、職員の意見が反映できるように努めています。</p>		
12	<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>代表者は各職員の適材適所を見極め、各ポジションに配置しております。 失敗を恐れず、何事にもチャレンジできるような職場環境を整備しております。</p>		
13	<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際の力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>法人事業所内研修を行い一人ひとりの、力量を把握し、良いところを伸ばせるよう指導し、意欲的に働けるよう努めています。</p>		
14	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>ネットワーク会議等、様々な会に加入しており同業者間での交流を図っている。同系列事業所の勉強会にも参加している。</p>		

II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
15	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>近所のスーパー等への買い物をはじめ、地域の行事に参加したり、ボランティアの方々に様々なご協力を頂き、地域資源を活用しながら快適な生活が送れるよう努めています。</p>	
16	<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>利用者本人及び家族様から今後への思い、要望などを聞き、家族様ともに安心して頂けるように努めています。また面会時にはご本人の様子を伝え、面会中止期間においては電話で状況を報告し家族様との信頼関係を築くよう努めています。</p>	
17	<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>利用者本人及び家族様からの会話やご本人の身体状況からニーズを導き出し、サービスを見極め必要とされるサービスを提供できるよう努めています。</p>	
18	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>利用者本人ができることは可能な限りやって頂き、介護が必要な部分をケアする利用者本位のサービスを提供する環境整備に努めております。</p>	
19	<p>○本人と共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>通常でしたら面会時に日々の様子を報告しご利用者様のことを相談しておりましたが、新型コロナウイルス感染対策のため面会中止期間はこまめに家族様へ連絡し、利用者様が不安にならないよう家族様の思いを本人に伝え、共に本人を支えていく関係を築けるよう努めております。</p>	
20	<p>○馴染みの人や場と関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>新型コロナウイルス感染防止のため入所者様には外出を自粛してもらっているが、知人等との関係が途切れないように電話を取り次ぐなど支援に努めています。</p>	
21	<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>話が苦手な方や、居室で過ごす事多い方には声かけし役割活動やレクを通し、利用者同士が関わり合えるよう努めています。特に重度な認知症の利用者同士の関わりには、スタッフが間に入り関わり合えるよう努めております。</p>	
22	<p>○関係を断ち切らない取組み</p> <p>サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>お亡くなりになられた方の葬儀には参列し、ご家族様に故人との入所中の思い出をお話するなど、これまでの関係を継続できるように努めております。</p>	

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	○思いやり意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者と話す機会を持ち、入所生活についての不安、不満等を払拭できるような環境を整えております。発語の難しい方には声のかけ方を工夫し、仕草や表情から読み取り支援している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時の聞き取りの際、家族より暮らしぶり等を聞き、又本人との会話の中で今までの、生活状況を聞き把握に努めています。職員から積極的に声がけし、利用者の思いを聞き出せるよう努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の、心身の状態を把握し1人ひとりに合った過ごし方が、できるよう支援しています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者が、より良く暮らすために日頃からコミュニケーションをたくさんとることを心掛け、本人や家族との会話の中から趣味・嗜好を把握し、介護計画の作成に活かしています。本人のADLや職員からの聞き取りを基に必要であれば随時プランを見直しています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子 変化について介護記録に記載しその都度話し合い職員間で情報を共有し介護計画の見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況に合わせた柔軟な支援ができるよう職員間で話し合いその時々合った支援が行えるよう取り組んでいます。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍で毎年参加している地域での行事等が中止になり、直接地域の方々と触れ合う機会が少なくなっているが、運営推進会議で民生委員の方や自治会長さんとお会いした時にご意見を頂くなど、楽しい生活が送れるよう支援しています。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的に入所前のかかりつけ医の医療機関で受診してもらっております。本人及び家族様の意向により、協力医療機関へ受診されることもあります。		

31	<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している</p>	<p>協力医療機関と24時間の連絡体制を敷いております。看護師にはいつでも相談できるような関係を築いております。</p>		
32	<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>入院時は入院機関へ必要な情報提供を行い、退院時には入院中の状態・留意事項等の確認を行い、退院後ホームでの生活がスムーズに送れるよう体制を整えています。</p>		
33	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や、終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>家族に本人の状態を報告し重度化した場合は家族と話し合い何処までできるか十分説明しながら方針を共有できるよう取り組んでいます。</p>		
34	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>法人内の他事業所の研修に参加し、急変時及び事故発生時に対応できるよう心掛けております。</p>		
35	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>避難訓練を行い利用者のスムーズな避難方法の習得に努めています。また地域での防災訓練について今年度はコロナ禍で見送りとなったが、また地域の方と連携を取り、参加させて頂く予定です。</p>		

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉づかい等、接遇に気を付け尊敬をもって対応するように周知しております。 声掛けひとつでスピーチロックという身体拘束になることを心掛け、職員同士気付いたことを注意しております。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の会話の中で本人の希望や思いを汲み取り自分で決められるよう支援しています。意思表示が出来ない方でも表情や動作で分かることもあるため反応をみながら把握できるように努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員がお手伝いしたくなるような時もあるが、本人のペースや希望に添えるよう時間に余裕を持ってのケアに努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	職員が決めるのではなく自分で着たい服を選んでもらい決められない方については一緒に選び支援しています。女性の化粧に関しても自身でしていただき出来ない部分を援助するよう努めています。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	刻み食やおかゆなど利用者の好みや状況に応じて食事形態を変えています。食事が止まってしまう方には声をかけをしたり、楽しい雰囲気の中食べていただけるよう支援しています。職員と一緒にテーブルやお盆拭き、配膳を行って下さっています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、集会に応じた支援をしている	個々に記録を行い十分水分が取れているか、食事がとれているか確認しています。摂取量が下がっている場合は主治医に相談し、対応しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後一人ひとりに合った口腔ケアを行い、汚れや臭いの無いように支援を行なっています。また口腔内清潔に努め誤嚥性肺炎の防止に努めています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄パターンを把握し一人ひとりに合わせた排泄支援を行っております。日中失敗の少ない方はおむつを使用せずトイレ誘導を行ったり、夜間も個人に合わせて自立に向けた支援を行なっています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬の処方だけに頼らず、食事や水分量などをこまめにチェックし対応しております。居室で過ごすだけでなく、散歩やレクリエーションで体を動かすよう声掛けております。		

45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>一人ひとりの入浴のタイミングに合わせて施行しています。また拒否がみられる方には何回か声かけし、その方のタイミングを図り入浴できるよう対応しています。</p>		
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>日中役割活動や敷地内の庭を散歩するなど気分転換を図りゆっくり体を休めるよう支援し眠れない方についてはお茶を一緒に飲みながら話相手をし落ち着けるよう支援しています。</p>		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や要領について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>薬の内容を理解し、その日の体調状態を把握するよう努め変化があれば主治医に相談するようにしています。</p>		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>毎月の誕生日会や季節ごとの行事を行い、利用者も一緒に参加し楽しんで頂けるよう支援している。個々の出来る事を大切に職員と共に行い気分転換が図れるよう支援しています。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>新型コロナウイルス感染防止のため、不要不急の外出は自粛してもらっていますが、敷地内の庭に出て歩いたり、紙芝居をしたり、少しでも外の気分が味わえるよう支援しています。感染拡大が落ち着いた際は本人、家族の希望に沿って外出できるよう支援致します。</p>		
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>お金の所持は基本的に禁止しております。どうしても所持したい場合は、トラブル防止のため家族様の許可の下施設で管理する体制を整えております。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>本人、家族様の希望により電話を掛けたり、手紙を事業所宛てに送ってもらったり、職員が投函したり、自由にやり取りしております。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>玄関やホールには季節の壁画を飾り四季をご利用者様に感じていただくよう工夫しています。ソファを置きゆったりと、利用者様が集まりやすい空間作りを心掛けています。家庭菜園での収穫及び食事での提供も季節感を味わいながら皆様楽しみにしています。</p>		

53	<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>リビングルームのように、ソファやテレビを配置し、利用者同士が交流できるようにしております。密にならないよう、リラックスできるような空間づくりに努めております。</p>		
54	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>これまで使用していた使い慣れたものを入所後も使用できることを説明しております。入所後も大事に使用されている方もいらっしゃいます。</p>		
55	<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>手すりの設置や余裕のある空間など、利用者が安心・安全に過ごしていただけるような環境を整備しております。</p>		

V アウトカム項目

56	職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	①毎日ある 日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない ②数
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	①ほぼ全ての家族と 族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない ②家
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている (参考項目:9,10,19)	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 たまに ④ほとんどない ③

65	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)</p>	○	<p>①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない</p>
66	<p>職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)</p>	○	<p>①ほぼ全ての職員が 職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない</p> <p style="text-align: right;">②</p>
67	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p>	○	<p>①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない</p>
68	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p>	○	<p>①ほぼ全ての家族等が ②家族の3分の2くらいが ③家族の3分の1くらいが ④ほとんどできていない</p>